

太田聡先生主要業績一覧

著書

『音韻構造とアクセント（日英語比較選書第10巻）』研究社，1998年2月（窪
蘭晴夫氏と共著）

論文（研究ノート及び書評を含む）

1. A Note on Vowel Reduction, *Kurokami Review* 5, 43-62. 1982年10月
2. On Medial Destressing, *Kurokami Review* 6, 1-17. 1983年9月
3. Word Stress and Syllable Structure in English, *Tsukuba English Studies* 5, 167-183. 1986年8月
4. On the Order of English Auxiliaries, *Tsukuba English Studies* 5, 199-201. 1986年8月（Nobuhiro Kaga ほかと共著）
5. On Ordering Paradoxes in Morphology, *English Linguistics* 4, 38-54. 1987年11月
6. 「リズム規則の適用可能性について」『英語と英米文学』23, 1-19. 1988年12月
7. 「日英語音節構造管見」『英語と英米文学』24, 1-11. 1989年12月
8. 「助数詞考」『山口大学教養部紀要（人文科学篇）』24, 99-104. 1991年2月
9. Syllable and Mora Geometry in Japanese, *Tsukuba English Studies* 10, 157-181. 1991年8月
10. 「人間言語の諸特性について（1）」『英語と英米文学』26, 1-35. 1991年12月
11. 「音節構造の普遍性と個別性」『日本語のモーラと音節構造に関する総合的研究（1）』（科研費研究成果報告書）84-89. 1992年2月
12. 「可能な派生を制限する2つの原理——非該当・最小努力の原理」『英語と英米文学』27, 11-32. 1992年12月
13. 「人間言語の諸特性について（2）」『山口大学教養部紀要（人文科学篇）』26, 143-164. 1993年2月
14. 「たかが『尻取り』，されど『尻取り』——幼稚園児との尻取り遊びが教えてくれること」『日本語のモーラと音節構造に関する総合的研究（2）』（科研費研究成果報告書）138-153. 1993年2月

15. 「ことばと環境」『いのちと環境』（山口大学教養部総合コース講義録 第7号）40-59. 1993年3月
16. On Word Medial Destressing: An Account Based on the Principle of Economy of Derivation, *Tsukuba English Studies* 12, 101-107. 1993年8月
17. A Syllable-Based Arboreal Theory of Stress and Destressing in English (Part 1) 『英語と英米文学』 28, 1-41. 1993年12月
18. 「連濁考」『音韻研究——理論と実践』（開拓社）99-100. 1996年11月
19. 「可能な語を生み出す原理と制約について」『熊本大学英語英文学』 40, 41-53. 1997年3月
20. 「語彙音韻論のはなし」『英語と英米文学』 32, 19-40. 1997年12月
21. 「英語の文強勢について」『全国語学教育学会山口支部研究紀要』 4, 12-25. 1998年3月
22. 「X バー理論による音節の分析」『言語研究の潮流——山本和之教授退官記念論文集』（開拓社）189-202. 2000年1月
23. 「21世紀の日本語の姿を求めて——音韻論の立場から」『言語文化論叢——縄田鉄男教授退官記念論文集』（縄田鉄男教授退官記念論文集刊行会（三省堂印刷））217-227. 2000年3月
24. 「混成語考」『意味と形のインターフェイス——中右実教授還暦記念論文集（下巻）』（くろしお出版）861-871. 2001年3月
25. 「動詞の屈折と OCP の働きについて」『山口大学文学会志』 52, 79-89. 2002年3月
26. 「混成語制約再考」『音韻研究』 6, 59-68. 2003年5月
27. 「どんな2音節の形容詞に -er, -est が付くのか？」『英語と英米文学』 38, 1-15. 2003年12月
28. 「SPE 理論とそれ以前の音韻論」『音韻理論ハンドブック』（英宝社）15-34. 2005年1月
29. 「屈折の具現をめぐって」『時制とその周辺領域の統語的・意味的研究』（科研費研究成果報告書）155-168. 2006年5月
30. 「2音節の形容詞の比較変化について」『言葉の絆——藤原保明博士還暦記念論文集』（開拓社）31-41. 2006年10月
31. 「外来語の促音化をめぐって：規定・記述 vs. 説明」『現代音韻論の論点』（晃学出版）165-186. 2007年9月
32. 「『～する人 [もの]』を表す接尾辞 -or について」『近代英語研究』 25, 127-133. 2009年5月

33. 「人や道具を表す英語の接尾辞について」『英語と英米文学』44, 1-15. 2009年12月
34. 「日本の地名のアクセント型とラテン語アクセント規則との不思議な関係について」『異文化研究』4, 1-14. 2010年3月
35. 「英語や日本語などの過去形が表す丁寧さについて」『時制とその周辺領域の発展的研究』（科研費研究成果報告書）71-81. 2011年3月
36. On the Relationship between Rendaku and Accent: Evidence from the *-kawa/-gawa* Alternation in Japanese Surnames, *Current Issues in Japanese Phonology: Segmental Variation in Japanese*, (Kaitakusha) 63-87. 2013年1月
37. Review: *Subsidiary Stresses in English* (E. Yamada), *English Linguistics* 30(1), 358-368. 2013年6月
38. 「短縮語形成管見」『異文化研究』8, 63-80. 2014年3月
39. 「連濁に前部要素の音韻の特徴が与える影響：連濁データベースを利用した研究」『第6回コーパス日本語ワークショップ予稿集』233-238. 2014年9月（太田真理氏と共著）
40. 「連濁の生起率に基づく日本語複合語の分類——連濁データベースによる研究」『国立国語研究所論集』10, 179-191. 2016年1月（太田真理氏と共著）
41. 「日本語複合語の不規則なアクセント型についての予備的考察」『山口大学文学会志』66, 89-99. 2016年3月
42. 「ダジャレ混成について」『現代音韻論の動向：日本音韻論学会20周年記念論文集』（開拓社）112-113. 2016年9月
43. 「日本語の名詞形成接尾辞『-さ』と『-み』について」『音韻研究の新展開：窪菌晴夫教授還暦記念論文集』（開拓社）84-97. 2017年3月
44. Memorization or Rule-based Generation? Producing Agentive Nouns and Comparative Adjectives in English, *Proceedings of PMCK Summer Conference 2017*, 3-4. 2017年6月
45. 「連濁とアクセント——普通名詞と無意味語の場合」『連濁の研究——国立国語研究所プロジェクト論文選集』（開拓社）69-94. 2017年11月（玉岡賀津雄氏と共著）
46. 「日本語複合名詞のアクセント」『ことばを編む』（開拓社）126-135. 2018年2月
47. 「日本語複合名詞の非標準的アクセント型について」『音韻研究』21, 81-88.

2018年3月

48. 「英語の大口音推移について」『英語と英米文学』53, 1-13. 2018年12月
49. 「複合名詞のアクセントとc統御」『音韻研究』22, 67-74. 2019年8月
50. 「『手話は言語だ』と改めて認識」『異文化研究』14, 86-90. 2020年3月
51. <Book Review> Laurie Bauer, *Compounds and Compounding*, Cambridge: Cambridge University Press, 2017. 『英語と英米文学』55, 51-58. 2020年12月
52. 「短縮語形成に関する一考察」『隣接諸科学乗り入れ型の手法による音韻理論の外的・内的検証の研究 研究成果報告書』7-20, 2021年3月
53. 「日本語の借用語の省略形に関する予備的研究」『音韻研究』24, 69-76. 2021年3月
54. 「乳幼児は小さな言語学者であり統計学者でもある」『異文化研究』18, 63-72. 2024年3月

雑録 (misc.)・寄稿等 (教育・研究に関するもののみ列挙)

1. 「音節構造に基づく語強勢の分析」(日本英文学会第58回大会報告(研究発表第十一室))『英文学研究』63(2), 444-444. 1986年12月(同ページ数の繰り返しは1ページしかないことを表す。以下同様)
2. 「音節構造をめぐって」(日本英文学会第64回大会報告(研究発表第十二室))『英文学研究』69(2), 445-446. 1993年1月
3. 「語のアクセントと形態は予測できる——生成文法の立場から」『大学! 学問・研究——学ぶよろこび・知るよろこび』(山口大学教養部総合コース講義録 第8号) 25-26. 1994年3月
4. 「研究室だより: 英米語文化論コース」『鴻文』19, 9-9. 1999年12月
5. 「山本和之氏の退官記念論文集出版祝賀会」『英語青年』146(1) (2000年4月号), 72-72.
6. 「魅力ある図書館 (その1)」『山口大学附属図書館報』62, 1-4. 2000年10月
7. 「人文学部英米語文化論コースの『英語劇』」『YU Information(山口大学広報)』52, 1-2. 2000年11月
8. 「魅力ある図書館 (その2)」『山口大学附属図書館報』63, 3-5. 2001年3月
9. 「魅力ある図書館 (その3)」『山口大学附属図書館報』64, 4-7. 2001年9月
10. 「英語学英米文学同窓会」『鴻文』21, 16-17. 2002年2月
11. 「ことばのエンジニアを目指しています。」『YU Information(山口大学

広報)』71, 19-19. 2004年5月

12. 「図書館でホットチョコレートを！」『山口大学図書館報』70, 6-7. 2005年2月
13. 「ロンドン大学 (University College London) における英語教員研修報告」『TOEICを活用した英語カリキュラム 教育の水準保証と学習支援 (平成 16年度採択・文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム (特色 GP)」報告書)』187-191. 2008年3月
14. 「人生, 何がどこで役立つかわかりません」山口大学人文学部教員ブログ (<https://www.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/2010/11/25/3749.html>) 2010年11月25日
15. 「『ツクバのガマ教』の第一教義」『原口庄輔先生追悼文集』52-52. 2012年12月
16. 「人文学部のFD活動」及び「人文科学研究科のFD活動」『平成23年度山口大学のFD活動』(山口大学大学教育機構・山口大学教学委員会編) 91-105. & 203-24. 2013年5月 (共同執筆)
17. 「君はまだ『暗記』?! 文法は理屈がわかれば暗記は不要。」山口大学人文学部教員紹介 (<https://www.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/teacher/teacher-english/s-ohata/>) 2015年度～
18. 「登田龍彦先生から学んだこと」『こころを編む: 登田龍彦先生退職記念エッセイ集』(長谷信夫ほか編, 印刷・製本: 中本本店株式会社, 広島市) 44-46. 2018年3月
19. 「伊藤順子先生・Armin Mester 先生への感謝」Hana-bana (花々): A Festschrift for Junko Ito and Armin Mester, On the occasion of their (eventual) retirements. (<https://itomestercelebration.sites.ucsc.edu/congratulations/#Satoshi%20Ohta>) 2019年1月
20. 「共通教育授業科目別のFD活動: 英語部会」『平成30年度山口大学のFD活動』(山口大学教育機構・山口大学教学委員会編) 85-85. 2020年1月
21. 「新支部長より会員の皆様へのご挨拶」日本英文学会中国四国支部ホームページ (<https://elsj.org/chu-shi/2024/04/27/>) 2023年4月1日～
22. 「岩部浩三先生に捧ぐ」『英語と英米文学』58, i-ii. 2023年12月

口頭発表・講演等 (内輪の小さな研究会での発表は省略)

1. 「無強勢化規則の韻律理論による一分析」日本英文学会九州支部第36回

- 大会（於：九州大学），1983年11月
2. 「英語の助動詞の順序について」筑波英語学会第6回大会（於：筑波大学），1985年11月（加賀信広氏ほかと共同発表）
 3. 「音節構造に基づく語強勢の分析」日本英文学会第53回大会（於：関西学院大学），1986年5月
 4. 「語形成における順序付けの逆理について」筑波英語学会第7回大会（於：筑波大学），1986年11月
 5. 「英語と日本語の音節構造について」英語音韻論研究会第10回研究発表会（於：岡山大学），1990年5月
 6. 「英語にあるライムは日本語にもある」英語音韻論研究会第12回研究発表会（於：明治大学），1991年5月
 7. 「音節とモーラは別次元がよい」日本言語学会第103回大会サテライトワークショップ（於：南山大学），1991年10月
 8. 「可能な派生を制限する2つの原理について」（慇懃発表）日本英語学会第9回大会（於：同志社大学），1991年11月23日
 9. 「音節構造をめぐる」（慇懃発表）日本英文学会第64回大会（於：西南学院大学），1992年5月23日
 10. An X-bar Theoretic Analysis of Syllables, *Santa Cruz Phonology Workshop* (@Univ. of California, Santa Cruz), 1995年4月15日
 11. 「可能な語を生み出す諸原理・諸制約——派生の経済性、接辞の下位範疇化、専門用語性をめぐって」日本英文学会中国四国支部第48回大会（於：山口大学），1995年10月28日
 12. 「日英語比較音韻論のトピックス」（招待発表）日本英語学会第13回大会ワークショップ（於：東京学芸大学），1995年11月
 13. 「レキシコンの内部構造について」（招待発表）日本英語学会第14回大会ワークショップ（於：関西学院大学），1996年11月17日
 14. 「日本語と英語のアクセントについて」（招待講演）山口県国際交流協会セミナー（於：山口県国際交流協会，山口市），1998年7月
 15. 「日英語の音の法則の比較」山口大学人文学部公開講座：日本語と英語の文法研究（第一回）（於：山口大学人文学部），1999年10月9日
 16. 「21世紀の日本語の発音を予測する」山口大学人文学部公開講座：日本語と英語の文法研（第二回）（於：山口大学人文学部），1999年10月16日
 17. 「混成語制約再考」日本音韻論学会第7回研究発表会（於：青山学院大学），2001年6月

18. 「音韻研究の展望」(招待講演) 日本英語学会第19回大会シンポジウム
(於: 東京大学駒場キャンパス), 2001年11月11日
19. 「混成語制約再考——その2」 日本音韻論学会第9回大会研究発表 (於:
日本大学), 2002年11月
20. 「ことばの謎を解く」 周南サテライトカレッジ (山口大学人文学部生涯
学習事業の一つ) (於: 徳山駅ビル市民交流センター), 2004年5月~7月
21. 「TOEIC を利用した英語カリキュラム」(招聘講演) 平成17年度「教育
改善支援プログラム (学内 GP)」 成果報告会・講演会 (於: 東京農工
大学府中キャンパス), 2005年10月31日
22. 「日本語複合名詞のアクセントについて」 第3回熱海 Phonology Festa
(於: KKR ホテル熱海), 2008年2月21日
23. 「小川さんと大川さん」 関西音韻論研究会 (PAIK) 例会 (於: 神戸大学),
2008年12月20日
24. On Agentive Suffixes in English, 関西音韻論研究会 (PAIK) 例会 (於:
神戸大学), 2009年7月4日
25. On the Relationship between Rendaku and Accent, (招待発表) 日本言
語学会第141回大会ワークショップ (於: 東北大学), 2010年11月28日
26. 「英語や日本語などの過去形が表す丁寧さについて」 第16回時間学セミ
ナー (山口大学時間学研究所主催, 於: 山口大学人文学部), 2011年1月
22日
27. 「4モーラ語における連濁」 国立国語研究所連濁プロジェクト研究発表会
(於: 山形テルサ, 山形市), 2011年6月4日
28. 「アクセントと連濁の相互作用」『日本語レキシコン——連濁事典の編纂』
プロジェクトミニ研究発表会 (於: 国立国語研究所), 2012年11月11日
29. 「外来語の短縮をめぐって」(招待講演) 第25回時間学セミナー (於: 山
口大学時間学研究所), 2013年3月1日
30. 「略語の仕組みをめぐって」(招待講演) 東京音韻論研究会 (TCP) 例
会 (於: 東京大学駒場キャンパス), 2013年4月20日
31. Rendaku “Enthusiasts” and Rendaku “Indifferents”: Classification of
Compound Nouns Based on the Frequency of Rendaku, 第3回音声学・
音韻論国際会議 (於: 国立国語研究所), 2013年12月20日 (Shinri Ohta
と共同発表)
32. 「連濁に前部要素の音韻的特徴が与える影響: 連濁データベースを利用
した研究」 第6回コーパス日本語ワークショップ (於: 国立国語研究所)

2014年9月10日（太田真理氏と共同発表）

33. 「連濁とアクセントの相互作用について」連濁プロジェクト研究会（於：山形テルサ，山形市），2014年11月2日
34. 「英語と日本語の音の体系について」（招待講演）SSH 英語教育研究所 冬の研修会（於：SSH 英語教育研究所水前寺教室，熊本市），2014年12月27日
35. 「調音音声学の基礎」（招待講演）SSH メソッド認定講師養成講座（於：（株）アップ，西宮市），2015年4月
36. Memorization or Rule-based Generation? Producing Agentive Nouns and Comparative Adjectives in English, (招待講演) *PMCK Summer Conference 2017* (@University of Seoul, Seoul), 2017年6月17日
37. 「Make を『マケ』と読まないのはなぜ？」英語音声指導協会（ATEP）冬のワークショップ（於：山口県健康づくりセンター，山口市），2018年1月7日
38. 「山口大学共通教育英語科目の変遷と課題」第67回中国・四国地区大学教育研究会（於：山口大学吉田キャンパス），2021年6月9日
39. 「複合語のアクセントに関するいくつかの問題」隣接諸科学乗り入れ型の手法による音韻理論の外的・内的検証の研究 2017年度研究成果発表会（於：山口大学人文学部），2018年3月27日
40. 「日英語の複合名詞のアクセントと構成素統御」隣接諸科学乗り入れ型の手法による音韻理論の外的・内的検証の研究 2018年度研究成果発表会（於：かんぼの宿 有馬，神戸市），2019年3月19日
41. 「採択されるためのコツや心構えなど——個人的雑感」令和元年度科研費採択者報告会（テーマ「科研費応募に向けた研究の持続性と新規性」）（於：山口大学人文学部），2019年6月19日
42. 「略語はこうして作られる」（招待講演）第26回時間学カフェ（於：山口大学時間学研究所），2022年6月22日
43. 「言語と脳のはなしを少し」（招待講演）時間学特別セミナー（於：山口大学時間学研究所），2022年11月22日
44. 「ヒトの言語と脳のはなし」（招待講演）日本英文学会中国四国支部第75回大会特別講演（於：島根大学），2023年10月28日
45. 「音韻論から見た日英語の語形成：派生と複合を中心に」（招待講演）筑波英語学会第45回大会（於：筑波大学），2024年11月16日

論文集・報告書編集

1. 『言葉の絆——藤原保明博士還暦記念論文集』 開拓社 (2006年10月刊)
2. 『時制とその周辺領域の発展的研究』 平成20年度～平成22年度科学研究費補助金 (基盤(C)) (課題番号: 20520441) 研究成果報告書 (2011年3月刊)
3. 『近代英語協会創立30周年記念論文集 (Studies in Modern English)』 英宝社 (2014年7月刊)

辞典・事典類

1. 『チョムスキー理論辞典』 研究社, 1992年6月 (項目分担執筆)
2. 『英語学用語辞典』 三省堂, 1999年1月 (項目分担執筆)
3. 『音声学・音韻論』 (英語学文献解題第6巻) 研究社, 1999年11月 (分担執筆)
4. 『ワードパル和英辞典』 小学館, 2001年1月 (項目分担執筆)
5. 『最新英語学・言語学用語辞典』 開拓社, 2015年11月 (項目分担執筆)

教科書類

1. 『英語基礎』 開拓社, 2002年9月/2003年9月 (共著: 山口大学共通教育英語部会)
2. 『山口大学人文学部入門講義 哲学・歴史学・社会学・文学・言語学テキスト』 (平成26年度入学者用) (共著)

外部資金獲得 (科研費の採択課題のみを挙げ, その他諸々の採択プロジェクトに関しては省略)

1. 「日本語のモーラと音節構造に関する総合的研究」 文部省重点領域研究「日本語音声における韻律的特徴の実態とその教育に関する総合的研究」(略称『日本語音声』), 研究代表者・杉藤美代子, E10班, 課題番号03208104及び04207104, 研究代表者・原口庄輔, 研究分担者, 1991年度～1992年度
2. 「時制とその周辺領域の統語的・意味的研究」 基盤研究(C), 課題番号15520311, 研究代表者・岩部浩三, 研究分担者, 2003年度～2005年度
3. 「時制とその周辺領域の発展的研究」 基盤研究(C), 課題番号20520441, 研究代表者, 2008年度～2010年度
4. 「日英語対照による語形成のメカニズムと音韻構造に関する研究」 基盤研究(C), 課題番号24520545, 研究代表者, 2012年度～2015年度

5. 「日英語対照による語形成と音韻構造に関する発展的研究」基盤研究(C), 課題番号16K02772, 研究代表者, 2016年度～2018年度
6. 「隣接諸科学乗り入れ型の手法による音韻理論の外的・内的検証の研究」基盤研究(B), 課題番号16H03427, 研究代表者・岡崎正男, 研究分担者, 2018年度～2020年度
7. 「日英語対照による周辺の語形成過程の音韻的分析」基盤研究(C), 課題番号19K00663, 研究代表者, 2019年度～2024年度

学会・研究会活動

筑波英語学会会員(1984年～), 近代英語協会会員(1985年～), 日本英文学会会員(1986年～), 日本英語学会会員(1987年～), 日本音韻論学会(旧, 英語音韻論研究会・音韻論研究会)会員(1990年～), アメリカ言語学会会員(1991年～), 日本言語学会会員(1992年～), 関西音韻論研究会会員(1995年～), 日本音声学会会員(1997年～), 日本時間学会会員(2009年～)

- ・日本音韻論学会理事(2001年度～2004年度(編集等担当), 2013年度～2017年度(Phonology Forum等担当), 2019年度～2022年度(Phonology Forum等担当))
- ・日本英文学会中国四国支部理事・推薦制県代表者(2007年度～現在)
- ・日本英語学会大会運営委員(2008年12月～2010年11月)
- ・近代英語協会編集委員(2010年度～2012年度)
- ・近代英語協会編集委員長兼新人賞選考委員(2013年度)
- ・近代英語協会理事(2013年度～2016年度, 2022年度～現在)
- ・日本英語学会学会賞審査委員(2011年度)
- ・山口大学時間学研究所運営委員／兼務所員(2011年度～現在)
- ・国立国語研究所「日本語レキシコン——連濁事典の編纂」プロジェクト共同研究員(2011年2月～2017年3月)
- ・日本英語学会外部査読者(2011年度～現在)
- ・日本英文学会中国四国支部支部長(2023年度～現在)
- ・日本英文学会理事(2023年度～現在)
- ・山口大学英語学研究会主宰(2012年度～現在)

その他, 日本音韻論学会, 日本英語学会, 近代英語協会, 日本英文学会, 日本言語学会, 日本音声学会などの大会での司会担当多数

社会貢献活動等

- ・大内南小学校 PTA 会長（1999年度）
- ・やまぐちサタデー・カレッジ(外国語学習コース)「映画で英語を楽しもう」講師（於：山口大学人文学部, 2001年度）
- ・宇部ユネスコ英語暗唱弁論大会審査員（2009年度～2011年度）
- ・宇部ユネスコ英語暗唱弁論大会審査員長（2012年度～現在）
- ・NPO 法人 SSH 英語教育研究所理事（2011年11月～2015年10月）
- ・公開講座「日本語教育能力検定試験対策講座」講師（於：山口大学）（2014年度～2015年度）
- ・山口大学地域未来創生センター主催山口大学公開講座「英語の発音セミナー」講師（2016年度～2018年度）
- ・英語音声指導協会（ATEP）会長（2016年12月～現在）
- ・出前講義（山口県：岩国高校（3回），下松高校，徳山高校，新南陽高校，防府高校，萩高校，中央高校（2回），西京高校，宇部高校； 広島県：府中高校，広高校，広島皆実高校，廿日市高校； 岡山県：倉敷古城池高校（3回）； 熊本県：八代高校，宇土高校； 長崎県：諫早高校， など）
- ・非常勤講師（北九州大学，山口女子大学，福岡ビジネス専門学校，山口県立大学，山口県立大学大学院国際文化学研究科，北九州大学大学院人間文化研究科，放送大学山口学習センター，山口コ・メディカル学院，九州大学文学部及び大学院人文科学府などで，「英語」，「言語学」，「音声学」，「英語史」，「英語学特論」等を担当）
- ・教員免許更新講習講師（2009年度，2014年度，2019年度）